

## 2000年12月の大気大循環と世界の天候

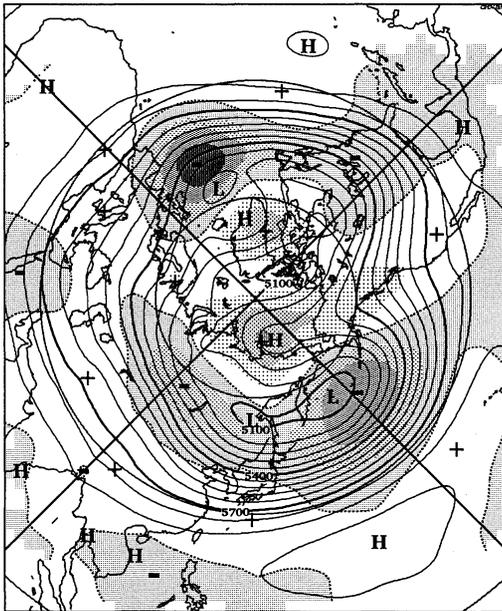
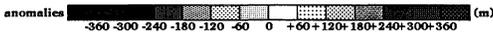
### 大気大循環

中旬に高緯度の成層圏で気温が上昇し、対流圏から成層圏にわたって極域に正偏差、中緯度に帯状に負偏差が分布する高度場となった。アリューシャン低気圧とアイスランド低気圧は共に強かった。北アメリカ周辺、大西洋からロシア西部にかけては低周波変動が卓越し、ユーラシアの東部では帯状流が強まった。

海洋と結びついた対流活動の分布、大気の循環ともに、11月よりラニーニャ傾向を強めた。インド洋の赤道付近から東南アジア、オーストラリアの北部付近では平年よりも対流活動が活発で、一方、中部太平洋赤道付近では不活発だった。インド洋から太平洋にかけてのウォーカー循環は平年よりも強い状態が続いた。

### 世界の天候

- ①日本南部から中国東部の高温
- ②東南アジアの高温  
タイのバンコクで $28.5^{\circ}\text{C}$  ( $+3.8^{\circ}\text{C}$ )。
- ③中央シベリアの低温  
ロシアのキレンスクで $-36.5^{\circ}\text{C}$  ( $-12.2^{\circ}\text{C}$ )。
- ④ヨーロッパ北部・西部の多雨  
スウェーデンのカルスタードで106mm (221%)。



2000年12月の北半球月平均500 hPa高度および平年偏差  
等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は60 m. 平年値は1961~1990年のデータに基づくもの。

イギリスでは中旬にかけて大雨や強風により交通が混乱したほか、数名の死者が伝えられた。

⑤ヨーロッパからアフリカ北部の高温  
フランスのブルジュで $7.6^{\circ}\text{C}$  ( $+3.8^{\circ}\text{C}$ )。

⑥米国南部・中西部の低温

米国のセントルイスで $-5.7^{\circ}\text{C}$  ( $-6.5^{\circ}\text{C}$ )。

米国では中西部や南部を中心に、寒波や暴風雪による交通障害や停電などの被害が相次いだ。

⑦北アメリカ西部の少雨

米国のサンタマリアで1mm (2%)。

⑧アルゼンチンの少雨

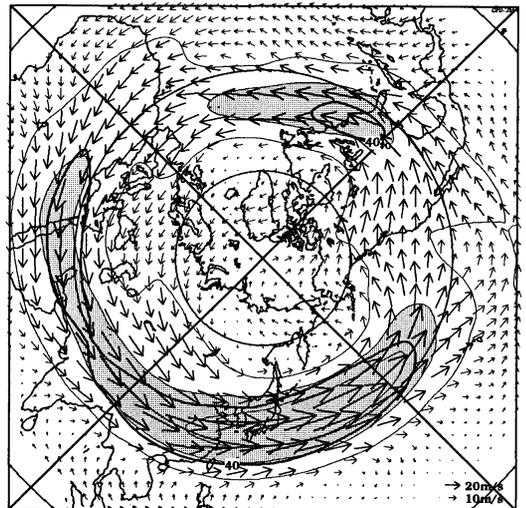
アルゼンチンのフニンで14mm (14%)。

⑨オーストラリア北部の低温・多雨

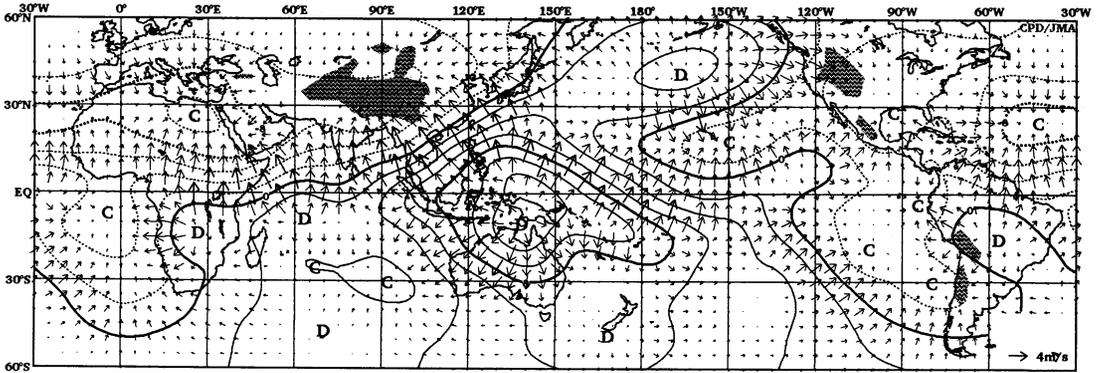
オーストラリア北部のテナント・クリークで $-4.3^{\circ}\text{C}$  ( $-3.9^{\circ}\text{C}$ )。また、オーストラリア北部のバークタウンで907mm (983%)。

上旬にオーストラリア北西岸に上陸したサイクロンの影響で、移民の乗った船が遭難し、300人以上が行方不明になったと報じられた。

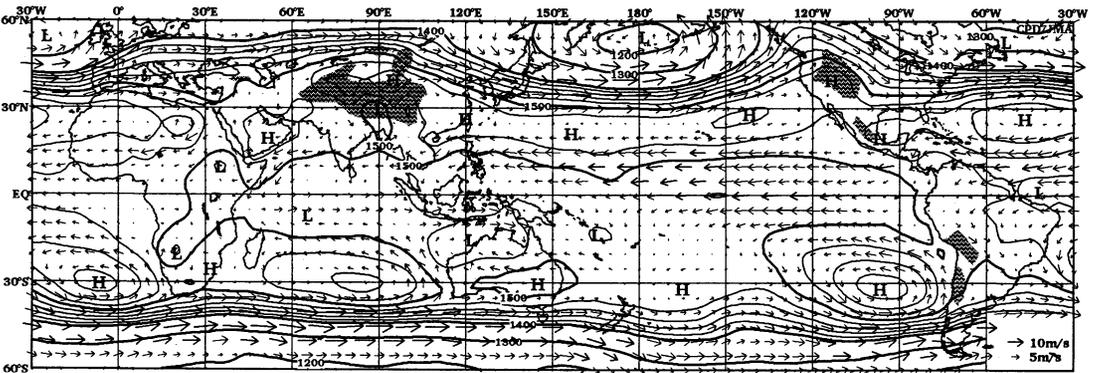
(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 佐藤兼太郎)



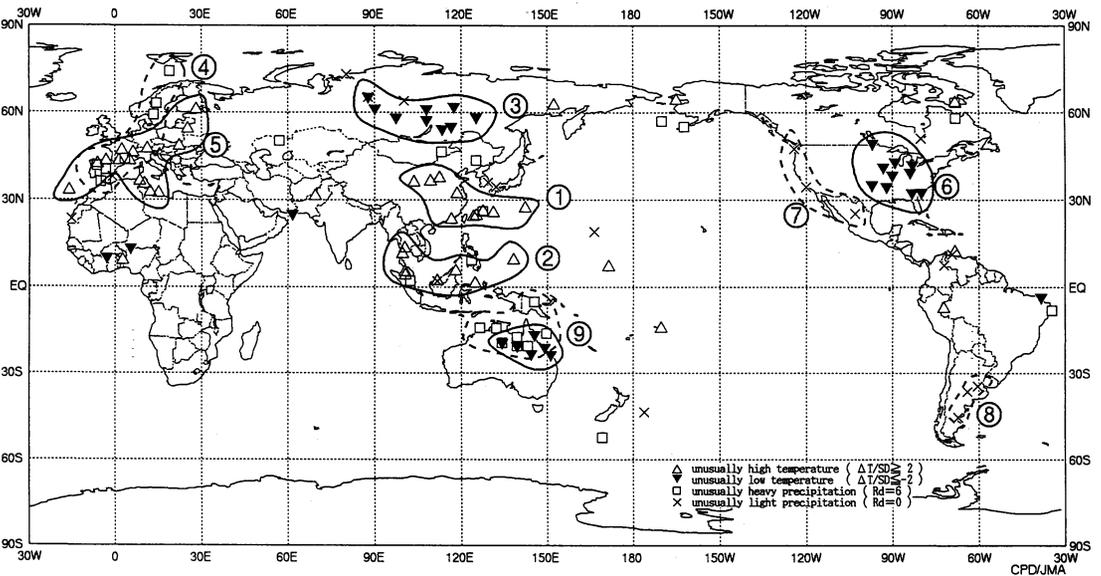
2000年12月の北半球月平均200 hPa風速および風ベクトル  
等値線間隔は20 m/s. 陰影部は平年で40 m/s以上、平年値は1979~1996年のデータに基づくもの。



2000年12月の月平均 850 hPa 高度および風ベクトル 等値線間隔は 20 m (1400 m までは 100 m)



2000年12月の月平均 200 hPa 速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は  $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



2000年12月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨  
 異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の  
 番号は本文中の番号と対応している.